

2025

9

真宗大谷派京都教区教化広報誌

教区だより

第3回連載

「女性教化」の近・現代史を紐解く

—真宗大谷派の場合—

大谷大学文学部歴史学科教授 福島 栄寿 氏

特集

お斎場レポート
五村別院の「お講汁」

レポート

「是旃陀羅」問題について
本部会合同連絡会
蓮如上人御忌法要

今、この時に、親鸞聖人に会う

長浜 第24組 谷 寿子 氏

「女性教化」の近・現代史を紐解く

— 真宗大谷派の場合 —

第3回

真宗の「女性教化」に関心を抱いた経緯（その二）

きよざわまんし
清沢満之を中心とする浩浩洞同人による『精神界』

発刊の時期を同じくし、しかも『精神界』では、「我らの仲間の多くが、関係している」（筆者意訳）と紹介された『家庭』とは、果たして、いかなる雑誌なのか。興味津々、内容を確認したいと思い立ち、早速、大谷大学図書館の書庫内を探してみたものの、肝心の創刊号を含む第一巻一二冊分が収蔵されていませんでした。調べると、金沢大学図書館の暁烏文庫（あけからすはや）蔵書約五万冊が収蔵）にあることがわかり、休暇を利用して暁烏文庫を訪れ、複写して入手することができたのでした。

「家庭」の発行所 「大日本仏教婦人会」

さて、『家庭』創刊号（明治三四年一月）の奥付によると、発行所は「大日本仏教婦人会」で、住所は「山城国紀伊郡東九条村字烏丸〇〇番地」。事務窓口は、「京都高倉真宗大学内「家庭」雑誌庶務部」でしたので、真宗大学（後の大谷大学）と関係があったことがうかがえます。また、発行所の大日本仏教婦人会の会主は、大谷派教学部の出雲路善佑（いずもじ）という人物でした。出雲路は、明治二八〇三〇年に清沢たちが教団革新を訴えた白川党運動で、関根仁応（せまねにんのう）（後に大谷大学学長

を務めた）とともに真宗大学生たちを主導しました。

その後、一九〇一（明治三四）年一〇月、『家庭』発行所は、真宗大学の東京巢鴨への移転開校に合わせて東京の『精神界』発行所へと移されました。ちなみに、本山に『精神界』の出版費用の話を付けたのも、関根と出雲路であったようです（暁烏敏「感銘の深い一人」『如意経』にようぎきょう所収）。

『家庭』創刊号の表紙裏には、大日本仏教婦人会の会則が掲載されています。「主義」として、「仏陀の教えによつて婦人の智徳を育てて円満な家庭を目指す」（筆者意訳）と定め、月一回の『家庭』誌の発刊と、講話会の開催を「事業」に掲げました。同じく表紙裏の「会員募集」欄には、「仏陀のみ心を心とし、仏の教えに依り、女性の皆さんとともに、知性品格が高く純潔な家庭を作り、清く楽しい生活を送るなかに互いに仏法を味わいましょう」（筆者意訳）と、入会を呼びかけました。いかにも「仏教主義婦人雑誌」の会員募集の文言でした。

「家庭」発行の趣旨

また、一ページ冒頭には、当時、華族女学校教授・帝国婦人協会会長で、日本女子の智徳の育成を提唱し

福島 栄寿 ふくしま えいじゆう

大谷大学文学部歴史学科教授



しもだうたこ
た下田歌子の短歌が掲載されました。続く二ページ冒頭には、大谷派寺務総長石川舜台（いしかわしゅんたい）の祝辞が載り、続いて大谷派教学部長の谷了然（やにょぜん）が、「家庭は社会の要素である。もし家庭が円満でなければ、国家社会の完成は望むことはできない」（筆者意訳）と、国家社会における家庭の重要性を力説しました。

このように、『家庭』は大谷派の息のかかった雑誌で、その目的は、真宗仏教による家庭の創出と女性教化にあると理解できました。それまで、近代大谷派の主な教化雑誌としては、『精神界』しか思い至らなかった私にとって、まさに目から鱗の発見でした。



『家庭』（大谷大学図書館蔵）

特集

出版部会

お斎場レポート

五村別院の「お講汁」こうじゅう

出版部会長 浜第24組 明樂寺 みやうらくじ 藤谷 法子 ふじたに のりこ

以前、何人かのご住職から「五村別院のお斎が旨い！」と聞いていて、なかなかいただく機会がなかった私。組の坊守会で「お講汁を作ろう」と企画したのがきっかけでレシピを聞くべくお斎場にお邪魔しました。昭和レトロ感たっぷりのお勝手場（台所）はたくさん

道具と大きなお鍋や食器があるべきところనికిちんと整理され、とても居心地のいい空間でした。長年お勝手場を切り盛りされてきた今 莊 静子さんいまじょうしずこからレシピをお伺いし、自坊で再現。昨年12月22日実施の組坊守会で頂きました。「うちのお講汁は丸大根ですよ」「うちの

報恩講は打ち豆汁やで」などなど楽しい会話と共にいつの間にか大きなお椀がすっかり空っぽになっていました。湖北の真宗のお寺はいろいろなお講汁があるので「お講汁探訪」も楽しいと感じました。

参加者からの意見の紹介

- ・「これこれ！この味。旨いなあ、懐かしいな」（住職談）
- ・なんと！かぶらが丸のまま入っている！でも美味しいから軽く完食できました。
- ・味噌汁というよりかシチューみたいで美味しい！！
- ・3日目目がトロントロンで美味しい
- ・レシピ教えて！（欠席者より）

かぶらのお講汁の作り方

（五村別院風）



【材料】ひとり一個のかぶら人数分（大きさはこぶしぐらい）・おあげさん・田舎味噌（こうじ味噌）・出汁パック・みりん

【作り方】

①お鍋に水をはり、かぶらは皮をむかないで水から茹でます。

②葉っぱはあらかじめ茹でておきます。あげも短冊に切って一緒に煮ます。

③かぶらは柔らかくなるまで煮ます。旬のものは思ったよりも柔らかくなります。

④柔らかくなったら出汁パックを入れて、お味噌を控えめに入れて一晩おきます。

⑤次の日、火を入れなおして味を見てみりんを隠し味に入れ、味噌も足して味を調えます。ここから何度も煮返しても大丈夫です。葉っぱを入れるタイミングはお任せします。七味唐辛子をお好みで（三日目のトロロンとしたお汁に入れたら最高でした）。

※味噌汁ではなく味噌味の煮物として考えます。みりんがかぶらの青臭さを消し、まろやかにしてくれます

※かぶらは丸のままの方がいいですが、大きければ切って煮てください。お玉などに触れて崩れないように注意してください。



上：レトロ感漂うお勝手場、中：お講汁、
下：レシピを再現し、組坊守会で会食の様子

部落差別問題に学ぶ同朋協議会 研修会 「是旃陀羅」問題について

是旃陀羅問題に学ぶ

長浜第16組 徳満寺 蜂屋 良生



部落差別問題に学ぶ同朋協議会主催で公開研修会が5月16日『是旃陀羅問題に学ぶ』というテーマで、京都教務所大講堂にて開催されました。「是旃陀羅」問題は本当に私の問題になっているのか、「是旃陀羅」問題について何らかの答えを求めている私に冒頭から厳しい問いかけがありました。現在、是旃陀羅問題学習テキスト『御同朋を生きる』が出されていますが、これを答えとして学ぶのではなく、ここから自分が「是旃陀羅」問題にどう向き合っていくのか、現場で一当事者として応えていかなければならない厳しい歩みがあることを教えられました。私たちの直面する問題として、『仏説観無量寿経』読誦の問題が出されましたが、こうすると決めて終わりという問題ではなく、私自身が經典をどう聞くのか、実際に痛みを感じるという問題提起に対して、そのご門徒の前で「是旃陀羅」を読誦できるのか、

自分で受けとめて考える、対話をしていく、それらの責任があることも痛感させられました。「学ぶことや解釈による正当化で済ませてはいけない。差別しているこの身を受けての謝罪と慙愧があるのか。私たち一人ひとりにかけられた身の自覚の問題として受け止めていくことが願われている」。先生のこの言葉から、私の差別に対する感覚の甘さと鈍さ、そして学びの姿勢を質されました。講義の中で「是旃陀羅」問題に関する決議を読ませていただきました。ここにある「謝罪」「慙愧」そして「人間解放の誓い」に自らが立っているのか。この問いに対して応じ続けることが、常にかが身を確かめていく道程ではないだろうか。これは根本的な聞法の歩みではないかということを考えさせられました。

二〇二四年度教化本部・部会委員 本部会合同連絡会

教区教化の出会い

出版部会 近江第26組 徳乗寺 比叡谷 真



去る四月二八日、京都教務所大講堂にて、二〇二四年度教化本部・部会委員合同連絡会が開催された。新教区の新たな教化体制はすでに動きだしているが、教化組織全体での会合は初めてであり、教区教化に関わっている者同士が出会う場として、以前から楽しみにしていた。

であり、特区・地区や組でも、積極的に用いてよいのではないかと。

今回も、初対面の方と同班になったが、付箋に書かれた内容から話がひろがって、人柄がなんとなく伝わってきた。後日、教区駐在教導を通してではあるが、原稿を依頼することができた。原稿依頼も含めて、そこから人同士、教区人同士の出会いがひらかれていくことが願われる。

二〇二四年度事業報告および二〇二五年度教化方針・事業計画（案）を確認共有した後、数班にわかれて、今後の教区教化についての展望をテーマに、ワークショップ形式による座談会を行った。新教区の教化体制についての具体的な検討を、当時の長浜・京都両教区教化関係者で始めた頃から、ワークショップ形式を多用するようになった。最初、物珍しさはあるものの、本当に座談になっっているのか疑問も感じていた。しかし、互いに知らない者同士が出会っていくにあたっては、導入としてとても有効

二〇二四年度事業報告および二〇二五年度教化方針・事業計画（案）を確認共有した後、数班にわかれて、今後の教区教化についての展望をテーマに、ワークショップ形式による座談会を行った。新教区の教化体制についての具体的な検討を、当時の長浜・京都両教区教化関係者で始めた頃から、ワークショップ形式を多用するようになった。最初、物珍しさはあるものの、本当に座談になっっているのか疑問も感じていた。しかし、互いに知らない者同士が出会って

新たな京都教区の教化は、教化に携わる者同士が横につながっていくところから、ひろがり、深まっていくものだと思う。教区教化を通しての出会いの場を、これからも大事にしていきたい。

今、この時に、

親鸞聖人に会う



「花あかり」とともに

長浜第24組
誓海寺
谷寿子



昨年7月1日、合唱団「花あかり」は誕生いたしました。実は長浜教区と京都教区が改編により、1つの教区になったために改名しました。前身は、真宗大谷派長浜教区合唱団「花あかり」という少々厳めしいフリの付いた合唱団で、すでに30年以上の歴史があります。

生まれるときというのは、多くのご苦労があったであろうと察しますが、本当にご縁としかいいようのない出会い（当時の教務所長様と、合唱団を作りたいと強く願われ、創設の諸々の事務に

ご尽力くだされた諸先輩方との出会い）によつて生まれた合唱団です。さらに教区教化委員としての一席をも設けていただくこととなり、その任に誇りを持って取り組んでこられました。そしてどんなことにも労力を惜しまず、合唱団を育て維持してきてくださった代々の先輩方がおられました。団員は80名を超える大所帯で、大谷派合唱連盟にも入っていたり、多くの団員が連盟の行事に参加してきた歴史があります。

コロナ禍の時を経てエネルギーをため込んだ合唱団は、教区改編を迎えることになりました。活動そのものは何の変わりもありませんが、仏徳讃嘆していかうと志す仲間が、地域や宗派を超えて集えることとなりました。これも仏教讃歌の良き理解者であり、「花あかり」の応援団でもある、時の教務所長様のお力添えがあつたのことと、不思議のご縁を感じています。

「花あかり」最大の事業は、教区内ふたつの別院の報恩講に参勤させていただくことです。それも報恩講中の一座の中日中を音楽法要で勤めてくださり、長い年月の間には幾種類もの法要曲で勤めさせてもらいました。その他、同朋大会での合唱披露、組や御寺院からの要

請があると法要参勤や合唱の披露をしてみなさんに仏教讃歌を広めています。

また、歌うだけでなく別院の清掃奉仕、法話会を開催しての聴聞、研修旅行「花あかり」にご縁のあつた方々の追弔会などの行事があります。どれも団員同士の新たな出会いや、お互いの親睦が深まることにつながっています。

私自身も当初から入らせていただき数多くの仏教讃歌に出会ってきました。讃歌に出会うとき、言葉に頷き、旋律に惹かれ、和声に魅せられます。特に和声の力は大きく、何度繰り返しても心が震えるような感動を覚えます。合唱は決してひとりでは得ることのできないハーモニーを感じられる素晴らしいものです。音楽は心を揺さぶり、言葉では表せない、涙ぐむような温かいものを感じさせてくれます。愚痴いっぱいの私は「花あかり」に引かれて育てられてきたのだと、あらためて思わされることです。

逃れることはできないし……と引き受けたお役ですが、させていただくことで、ここまで引き継いでこられた先輩方のご苦労が身に染みてわかってきます。そしてそこにはそれぞれの熱い思いと決意があつたこと、様々のご縁によつて成つ

てきたのであろうことが感じられます。そして今、この団の活動が成り立っているのは団員のみならず、スタッフ、役員みなさまのおかげさまと、わが身の頼りなさを感じるにつけ頭が下がる思いです。

2026年5月31日（日）には35周年記念の演奏会を開催いたします。新生「花あかり」は男性団員も増え、ますますパワーアップいたしました。日頃の練習で大谷会館のご本尊の前に集えるご縁を慶び、同じようにその日、五村別院のご本尊の前で多くの皆さまとともに集えることを念じています。

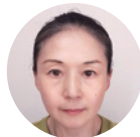


五村別院での音楽法要

蓮如上人御忌法要

吉崎別院にお参りして

近江第26組 徳乗寺 比叡谷 紗誓



蓮如上人御影道中は、毎年4月17日に本山を立ち、私の住む在所を通り吉崎へと行かれる御仏事です。23日〜5月2日の10日間は、吉崎別院に逗留され、連日三座の法要・法座が勤まっています。

全寺院発送に入っている吉崎別院からのお知らせで、道中で通る教区や、縁のある僧侶は事前に出仕願を出しての出仕が可能と知ってから、毎年のようにお参りさせて頂いています。別院の法要は、崇敬区域の方が出仕されるのが通例です。他教区の方と一緒に法要に出仕するというのは、中々ないことです。で、これもまた、道中がある吉崎別院ならではの貴重な場だと思っています。

今年は、『浄土和讃』からまわり口で読まれていて、私がお参りしたお座は「無碍光仏のひかりに

は」から始まりました。私に当たった巡讃の句頭「弥陀の大悲深ければ」の節符にばかり気をとられていましたが、いざお勤めが始まってから、変成男子の和讃だと気づきました。

私にとつては、「一日男性に代わってから往生する」ということに違和感のある和讃で、人前で読むことにためらいがありました。もし私が声を出さなくても、儀式は進むとは思いますが、読まなければ、そもそもの女人往生の問題はどうなるのか、女人がどうして改めて取り上げられているのかを考える機会もなくなってしまうかもしれないと逡巡しながらも読みました。法要後には出仕の僧侶方に、その思いを聞いて頂きました。それも含めて、貴重なご縁となりました。

男と女の平等って、なに？

鹿皮は足につけよ

出版部会長 浜第24組 明樂寺 藤谷 法子



お釈迦さまはあるとき弟子たちにこんな質問を出された。「世の中の道は石や木切れが落ちていて、歩くのに危険である。どうすればよいか？」（中略）弟子の一人が皆を代表するかたちで答えた。「人間の歩く道を全部鹿の皮で覆うとよいと思います」確かにそうすれば道を歩ける。それも一案だ。しかし、お釈迦さまは言われた。「世の中の道を全部鹿の皮で覆うことはまず不可能である。それよりは、人間の足を鹿の皮で覆ったほうがよい。そのほうが現実性がある。」（『仏教布教法話全集』ひろさちや 四季社）



かったかのようにふるまい、後からぶつぶつ文句を言っています。それなのに、この違いだらけの世の中が悪いんだ、世の中が変わらなければならない、と思うことさえあります。鹿の皮のお話を聞くといつも、私がこの世を歩んでいくには「仏教の教え」という鹿の皮の靴が必要だなと感じます。

どこまでいっても「私さえよければ」「私が一番」ばかりのこの世界。そんなことを考えているのは人間だけかもしれない。ふと窓から外を見てみますと田舎の風景が見えます。石や木、山、鳥や動物、虫たちを

人間は自分と自分以外の誰かとの違いをなかなか認めることができません。そして「堪忍土」といわれるこの世は男女に限らず、違いがいっぱいで差別だらけの世界ではないでしょうか。私にはそんな中で生きていく力はありません。納得いかないことがあっても得ての良いうようにとって、何ごともな

見ると違いだらけです。お釈迦さまはこのような景色を見ながら弟子たちにお説法をされたかもしれませんね。私の目に映る自然の仲間たちは何も言わずに存在し、やがて消えていきます。「さすがだな」「すごいな」といつも思います。木や石の様に生きられたら最高だな、とつくづく思います。

京都教区 9月の教区事業

8日(月)	14:00～16:30	准堂衆会
10日(水)	9:30～15:30	坊守会 基礎講座
17日(水)	14:00～16:00	福島の子どもたち一時避難受け入れの会 総会

教区会館 2階 大講堂

教区会館 2階 大講堂

教区会館 3階 研修室

京都教区 9月の教区諸会議

9日(火)	13:30～16:30	教化本部
22日(月)	13:30～16:30	教化本部 出版部会 編集会議

教区会館 2階 大講堂

Web 会議 (Zoom)

教務所からのお知らせ

教区会・教区門徒会合同会議(通常会)の議決事項について(報告)

二〇二五年七月二十三日開催の教区会・教区門徒会合同会議(通常会)において、左記の議案が議決されたので報告します。

記

- 第一号 二〇二四年度 京都教区事業費会計歳入歳出決算書
- 第二号 二〇二四年度 京都教区教学研鑽機関特別会計歳入歳出決算書
- 第三号 二〇二四年度 京都教区常磐会館特別会計歳入歳出決算書
- 第四号 二〇二五年度 宗派経常費御依頼額各組割当基準に関する件
- 第五号 二〇二五年度 宗派経常費御依頼額因伯組各寺割当基準に関する件
- 第六号 京都教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要計画
- 第七号 二〇二五年度 京都教区教区費賦課基準に関する件
- 第八号 二〇二五年度 京都教区事業費会計歳入歳出予算
- 第九号 二〇二五年度 京都教区教学研鑽機関特別会計歳入歳出予算
- 第十号 二〇二五年度 京都教区常磐会館特別会計歳入歳出予算
- 第十一号 京都教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要保管金規程
- 第十二号 京都教区 教区会・教区門徒会議事細則の一部改正について
- 第十三号 「教区及び組の改編に関する条例」第十三条第一項第三号に定める委員について同意を求める件

以上

敬弔について

「敬弔」については、宗派発行の『真宗』誌または、京都教区発行の教務所長各組巡回『事務連絡資料』をご覧ください。

京都教務所人事異動について

【二〇二五年八月一日付】

- ・内麻顕祐(うちまけんゆう)
京都教務所次長から組織部次長に任命。
- ・白河祐亮(しらかわゆうりょう)
組織部次長から京都教務所次長に任命。

長浜教務支所の現金取扱日について

長浜教務支所の現金取り扱いは、左記のとおりです。

9月8日(月)	9月22日(月)
10月6日(月)	10月20日(月)
11月4日(火)	11月17日(月)
12月8日(月)	12月22日(月)
1月19日(月)	

教務所・教務支所の開所時間について

宗務役員の働きやすさ改革に伴い、教務所及び教務支所の来客の受付時間を午前九時から午後四時三十分までとし、午後四時三十分から午後五時三十分までを事務整理時間としております。午後四時三十分には教務所及び教務支所を閉所いたしますので、ご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

依頼「令和六年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

昨年(二〇二四年)一月一日に発生した能登半島地震から一年半余り経過いたしました。これまで、教区内のみならず被災地の支援にご理解をたまわり、救援金をお寄せいただいておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

このたびの地震の影響を受けた北陸の地は、真宗門徒の多い地域であります。とりわけ震源地である能登地方は多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、今もお深い悲しみと不安の日々を過ごされております。真宗大谷派として、今後も全力を傾注して支援策を講じてまいります。地震発生直後から、真宗大谷派寺院の被害状況や今日までの支援活動の様子などは、真宗大谷派Webサイト内でも随時お知らせ更新しております。また、公式SNS(X)でも発信しています。

京都教区としても、息の長い被災地支援を続けてまいりたいと存じます。なにご趣旨をご賢察たまわり、救援金勧募などの被災地の支援に引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

真宗大谷派Webサイト内
令和6年能登半島地震について

災害情報公式X(旧ツイッター)



京都教区別院 9 月の行事予定

1日(月)	13:00～15:30	山科	同朋の会 法話 磯野 恵嗣 師 (教区駐在教導)	山科別院
5日(金)	12:00～13:00	赤野井	定例法話 (教如上人御命日速夜) 法話 中川 眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
5日(金)	14:00～16:00	山科	定例法話 法話 治田 義章 師 (近江第2組 善念寺)	山科別院
6日(土)	14:00～16:00	伏見	声明作法講座 法話 浅井 誠 師 (山城第3組 皆演寺)	伏見別院
10日(水)	14:00～17:00	伏見	伏見別院同朋会 御文輪読	伏見別院
13日(土)	10:00～11:30	岡崎	三日講「歎異抄を読む」 法話 近藤 悠 師 (別院輪番)	岡崎別院
18日(木)	9:30～11:30	五村	秋季彼岸会 法話 松下 蓮 師 (丹波第2組 延福寺)	五村別院
19日(金)	9:30～11:30	五村	秋季彼岸会 法話 雨森 慶為 師 (長浜第19組 頓證寺)	五村別院
20日(土)	9:30～11:30	五村	秋季彼岸会 法話 堀澤 俊行 師 (長浜第13組 念願寺)	五村別院
22日(月)	14:00～15:30	伏見	秋季彼岸会 法話 小池 秀章 師 (龍谷大学講師)	伏見別院
23日(火)	10:00～11:00	山科	秋季彼岸会	山科別院
23日(火)	10:00～12:00	岡崎	秋季彼岸会 法話 志紀 正機 師 (大阪教区 常願寺)	岡崎別院
23日(火)	14:00～16:00	大津	秋季彼岸会兼永代経 法話 西村 沙羅 師 (近江第9組 妙宗寺)	大津別院
24日(水)	10:00～11:50	長浜	秋季彼岸会	長浜別院
24日(水)	14:00～16:30	山科	報恩講 速夜 法話 藤場 俊基 師 (金沢教区 常讀寺)	山科別院
24日(水)	19:00～21:00	伏見	親鸞教室 法話 藤原 正寿 師 (大谷大学准教授)	伏見別院
25日(木)	10:00～11:50	長浜	秋季彼岸会	長浜別院
25日(木)	10:00～12:00	山科	報恩講 日中 法話 藤場 俊基 師 (金沢教区 常讀寺)	山科別院
25日(木)	12:00～13:00	赤野井	秋季彼岸会法要 法話 中川 眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
26日(金)	10:00～11:50	長浜	秋季彼岸会	長浜別院
27日(土)	12:00～13:00	赤野井	定例法話 (宗祖親鸞聖人御命日速夜) 法話 中川 眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
27日(土)	14:00～16:00	伏見	ご命日のつどい 法話 友澤 秀三 師 (大阪教区 南照寺)	伏見別院
30日(火)	14:00～18:00	伏見	伝研自主学習会 宮城顕選集『浄土論註聞記』輪読	伏見別院

京都教区 公式SNSあります

公式SNSで更新情報などを配信しています。1,000カ寺を超える寺院・教会がある京都教区ですが、登録者数はまだまだ少ないです！ぜひご登録をお願いします！



Facebook、Instagram
もちろんあります！



LINE公式アカウント
2025年8月7日現在
登録者数215名
LINE ID @441foywe



(出版部会 徳田 潤子)

夏の楽しみの一つに花火がある。私が保育園／小学生頃まで毎年、母と私達姉妹は母の実家に帰り、何日か泊まっていた。雨の日以外、夜は伯父二人と私達姉妹で花火をするのが楽しみだった。伯父の花火のやり方は豪快で（花火を木に吊るして回す、打ち上げ花火を手を持つ、ロケット花火を屋根に打ち上げる等）面白かった。自分の家に帰り、そのやり方を披露したら祖母に怒られた。
今でも花火をやる時はなぜか心がウズウズする。

編集後記

「教区だより表紙写真大募集!!」

本誌表紙写真を大募集いたします！

テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿彌陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。
詳しくは京都教務所まで。
お待ちしております！



【表紙の写真】お彼岸（石川慎悟／山城第1組 憶念寺門徒）

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌 教区だより 第424号

真宗大谷派 京都教区 Webサイト <https://www.k-kyoku.net>

【発行人】宮戸弘（真宗大谷派京都教務所長）【発行所】真宗大谷派京都教務所【発行日】2025（令和7）年9月1日

〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入 Tel 075-351-5260 Fax 075-351-5256 Mail kyoto@higashihonganji.or.jp

